

スタンダードに基づく教員養成教育の質保証の取り組み

- 教職実践演習との関わりで -

渡邊 隆信（兵庫教育大学大学院学校教育研究科）

1．兵庫教育大学における教職実践演習の準備状況

兵庫教育大学では平成 20 年度の学部新課程導入により、23 年度後期から教職実践演習を実施する。その準備のために学内に教職実践演習専門部会を設け、履修カルテと授業内容の検討をおこなってきた。

履修カルテにおいて学生が自己・他者評価すべき到達目標は全 24 項目で、それは中央教育審議会によって示された「到達目標及び目標到達の確認指標例」に本学が独自に手を加えたものである。教職実践演習の授業は、オリエンテーション（1 回）、事例研究（6 回）、模擬授業（6 回）、まとめ（2 回）によって構成し、15～20 名程度の小グループに分かれて演習形式で実施する予定である。

本年度前期には、現 3 年次生に向けて説明会を開き、履修カルテの目的と内容について周知を図っている。

2．教員養成スタンダードの開発とその運用方法の検討

兵庫教育大学では、教職実践演習の準備と平行して、平成 21 年 10 月より文部科学省の補助を受け、「スタンダードに基づく教員養成教育の質保証 - 到達基準を見据えたカリキュラムの検証と全学的学習支援体制の構築 - 」に取り組んでいる。この取り組みの目的は、

本学の学士課程において養成・輩出される学生が備えるべき資質能力の到達基準（スタンダード）を明確化すること、到達目標に基づいて人材を確実に輩出できるよう、学部 4 年間の教育課程の順次性・体系性の検証と実質化を行うこと、到達目標に基づき学生が確実に学習成果をあげることができるための、適切な評価と学習支援の体制を整備する

こと、の3点である。

この目的を達成するために、学長を機構長、両副学長を副機構長とする教員養成スタンダード推進機構を設け、全学をあげて作業に取り組んでいる。教員養成スタンダード推進機構研究開発委員会のもとに置かれた5つの部会（幼稚園教員養成部会、小学校教員養成部会、中学校教員養成部会、e-ポートフォリオ・学習到達度診断カルテ、学習評価・リメディアル教育部会）が相互に連携して作業を進めることで、平成23年度中を目途に一定の成果を出す予定である。

現在は主に、教員養成スタンダードの開発をしながら、e-ポートフォリオ導入の準備をおこなっている。教員養成スタンダードの開発にあたっては、他国の教員養成スタンダードや国内の先進事例を調査したうえで、現職教員・教育委員会・教員養成大学（学部）教員へのアンケート調査に基づき合計50項目のスタンダード（第一次案）を策定した。そのうえで全国900名の現職教員から得た質問紙調査結果により、第一次案のスタンダードの妥当性を検証しているところである。このように全国規模の調査に基づいてスタンダードの開発をおこなっている点が、本学の大きな特徴である。

開発した教員養成スタンダードは、教職実践演習や履修カルテ（学習到達度診断カルテ）において、新たな到達目標として用いられる予定である。

3. 今後の課題

今後は主に、幼・小・中の教員養成スタンダードを確定すること、開発したスタンダードに基づいて学習到達度診断カルテやカリキュラムマップを作成すること、e-ポートフォリオの開発や各種セミナーの開設など、評価と学習支援の体制を整備すること、スタンダードに基づく教員養成教育の質保証について、附属学校園教員を含む大学の全教職員の間でさらに意識を共有し高めていくこと、という4つの課題に取り組んでいく予定である。